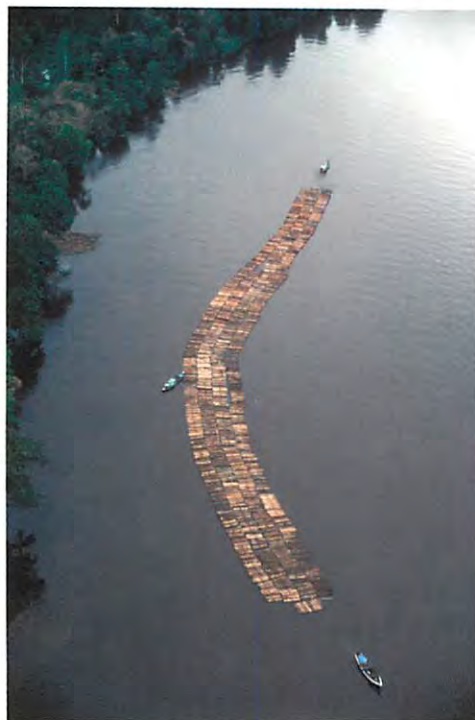


# 守れ!ボルネオの熱帯林

## STOP! 違法材



(写真左上・違法伐採停止で戻るオランウータン 2008年インドネシア/右上・ホーンビル 2004年サラワク州) by HUTAN Group

(写真下・インドネシアのタンジュン・プティン国立公園でラミン材の違法伐採後の輸送 2001年) by Telapak & EIA

2009年2月: 編集—今、インドネシア・カリマンタンからマレーシア・サラワク州、サバ州へ密輸材が8割停止!

発行: **ウータン・森と生活を考える会** (HUTAN Group)

協力: ラミン調査会、Telapak、EIA、KAIL、Yayasan Titian、Forest Watch Indonesia、FoEJapan



\*\*\*\*目次\*\*\*\*

- 1、生命を育む森—ボルネオ島の熱帯林と世界の森
- 2、原生林の破壊とマレーシア・サラワク州の先住民
- 3、インドネシアでの違法伐採、マレーシア等への違法貿易
- 4、違法ラミン材の停止を進める
- 5、世界で違法材停止が進み始めた
- 6、ボルネオ島—サラワク、サバ、カリマンタンの今後の保全

☆プロローグ————☆————

- 2005年1月ユドヨノ大統領・【違法材撲滅宣言】—Togu 氏《違法伐採者の犯罪を明らかにせねばならない!!》  
トグ・マヌルン(Togu Manurung)インドネシア林業大臣相談役(Forest Watch Indonesia 元事務局長)  
= Real commitment and actions to combat illegal logging and log smuggling! =



(インドネシアの違法伐採・写真 by Togu Manurung 氏)

林業省は、長らく違法伐採について取り組んで大きな成果を挙げた。しかし現場では違法伐採などがまだ行われている。これからも林業省としては、この問題を撲滅させるために取り組んで行く。

林業省の活動としては、違法伐採者を逮捕するだけでなく、裁判のプロセスを通して、彼らの犯罪を明らかにしていかなければならない。政府として質を高めていけたらと思う。この闘いは長いものになると思うが、我々は必ず実行していかなければならない。日本の皆さんも違法材停止に向け、ご協力してほしい。

\*\*\* (インドネシア語訳/中村、尾崎\*2007年7月17日談)\*\*\* (Mr.Togu 写真上左 写真 by Nishioka)

◎とうとう2009年1月、インドネシア・カリマンタンからサバ州、サラワク州へ密輸材が8割減少へ！！

—密輸困難、インドネシア政府の頑張り、国際キャンペーンの結果、2009年1月ウータンとインドネシア NGOs と共同調査で—

- 【多くの命が生まれる森は宝だ！】サラワク州先住民プナン人ケラセイ・ナアーン村長(2007年没)



= Save the primary forests in Borneo ! =

(写真・西岡)

「古来から私たち先住民は、森の中で暮らしてきた。森があるから、生活が豊かで、お金を使わなくて済んできた。ところが伐採企業は【金・金】という。森は宝であるのに・・・。」(サラワク州奥地 2004年/聞き取り・西岡)

- 生物多様性、気候変動、アブラヤシ開発、ダム問題とボルネオ島(インドネシア、マレーシア、ブルネイ)

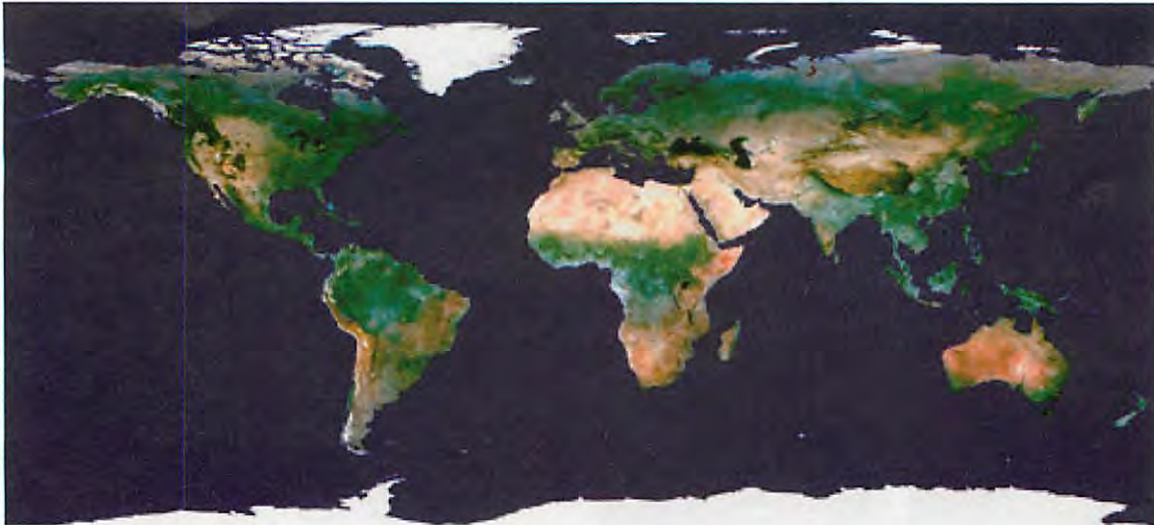
生物多様性条約(CBD)第9回締約国会議(COP9)は2008年ドイツで開催。COP9 会議で2010年までに生物多様性の損失速度を減少の目標(「2010年目標」)を採択。成果は、バイオ燃料を含む農業、森林等各生態系の多様性の保全と持続可能な利用の採択、「2010年目標」を含む条約計画見直し決定、第10回会議を2010年10月名古屋で開催採択。マレーシアでの COP8で「山岳地保全推進」決議も原生林保全をマレーシアは実行せず。

2008年4月、『Heart of Borneo』(\*)につきブルネイ、インドネシア主導で3カ国の国境管理、保護区の管理、持続的な資源管理の計画が合意されたが、依然としてアブラヤシ開発の拡大、泥炭湿地から二酸化炭素の排出が続く。そしてサラワク州に12のダム計画！

(\*)『Heart of Borneo』(ハート・オブ・ボルネオ)・・・ボルネオ島の3カ国の国境山岳地帯をアブラヤシ農園の開発を実施の計画。主に中国の資本導入でマレーシア、インドネシアが一度合意もインドネシアで NGOs が停止要求で中断、2007年12月でブルネイは反対表明。国際的な批判が高い。



# 1、生命を育む森—ボルネオ島の熱帯林と世界の森



ASA より(世界の森林)

(写真下左・野生のショウガの花 / 中・ジャックフルーツ / 右・ボルネオの原生林の中—マレーシア・サラワク州で)



写真 by HUTAN

地球上の約半分の生物が暮らす熱帯林。数千万の生き物がこの森から生まれる。熱帯林の中を歩いてほとんど同じ樹に会うことが少ない。1haの広さにおよそ300種類の植物が織りなす。植物だけでなく、多くの動物や昆虫、魚等がこの熱帯林に生息しており、2007年にもボルネオの森で新種の動物が発見された。

森は多くの恩恵をもたらせてくれる生命の源だ。熱帯林は洪水を防ぐ役目を行い、雨をもたらせ、酸素と二酸化炭素の吸収・排出の調節を行い、気候も和らげ、多くの食物を作り出し薬草も育む。

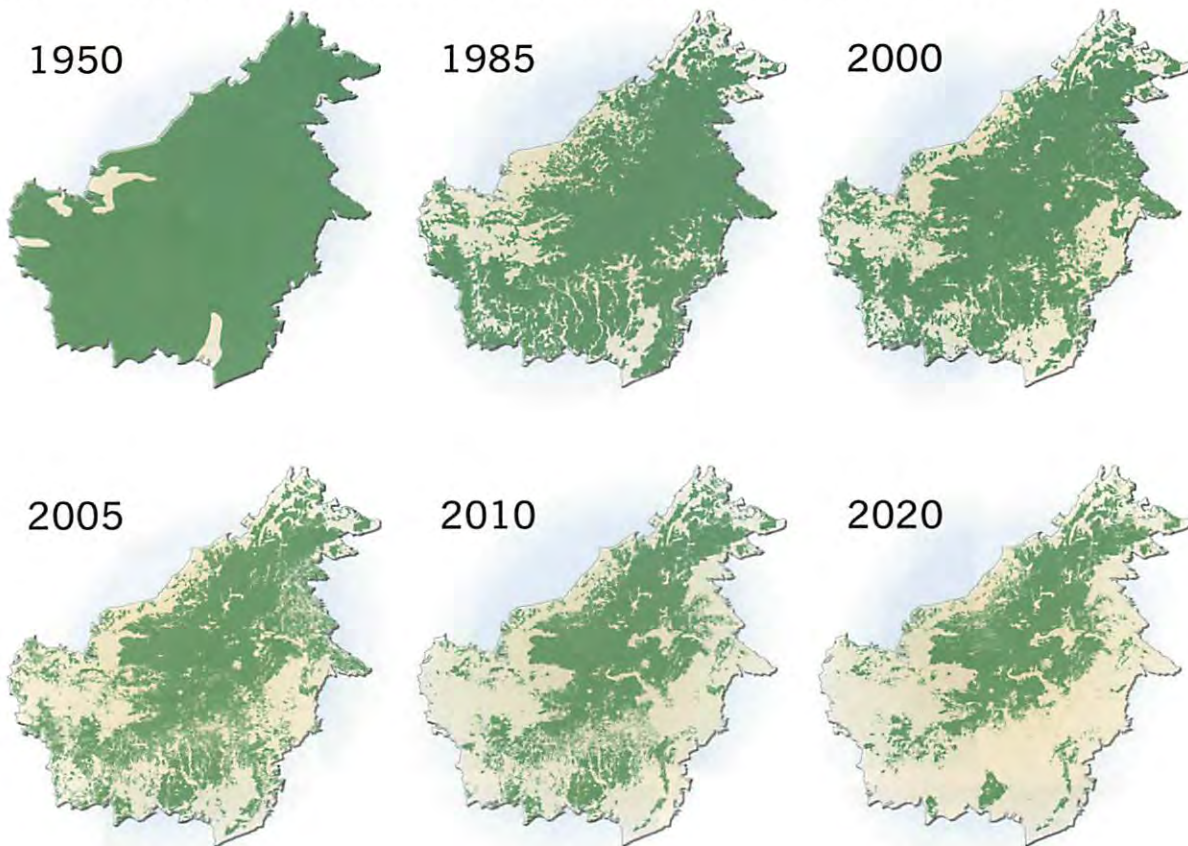
ボルネオ島に15000種の植物種が生え、オランウータン、ギボン、テナグザル等44の固有種を含む222種の動物達、カエルや鳥もボルネオ固有種が多い。しかし1980年に7割あった森が、2000年に50%以下(\*)に消失した。

以前広大な面積を占めていた世界の原生林は僅か30年間で8割以上が破壊され、国際熱帯木材機関(ITTO)も2006年に「持続可能な森林経営の熱帯林は5%。熱帯林の95%が危険な状態に晒されている」と報告をしている。2007年12月温暖化防止締結国会議(COP)12バリ会議で森林保全へ動きだしたが、原生林が今も破壊され、違法伐採が続き、とりわけ熱帯のボルネオ島やアマゾンの楽園がピンチである。

(\*) World Resources Insitutites『World Resources 2000—2001』によるとインドネシアの熱帯林保護率21%、マレーシアは12%、IUCNによる生存を脅かされる動植物は、インドネシア、マレーシアとも約700種、インドネシアでは動植物、マレーシアでは植物の絶滅の危機がある。他の資料『絶滅危機生物の世界地図』



(図:1950-2020年のボルネオ島の森林破壊と今後の破壊予想図/ WWF Germany より)



(写真下左・世界一の花ラフレシアーサバ州で 2001 年 / 下右・ボルネオ固有種・テングザル 2004 年 Photo by HUTAN 西岡)



今、世界の熱帯で原生林が残っているのはボルネオ島(マレーシア、インドネシア、ブルネイ)、アマゾン、コンゴ流域、パプア・ニューギニア等の森だ。その他の森は大半が消滅した。

森林破壊の原因は様々だが、最大は違法な伐採を含む商業伐採だ。その他に道路・ダム建設、牧場・農業地へ転用やアブラヤシ用巨大農園開発、薪材等として使用のため。現在の商業伐採での拓伐方式も原生林を30-70%も壊すという。

ボルネオ島の代表林の例は、海岸から①マングローブ林、②泥炭湿地・沼沢林、③メランティ等の低地林、④ケランガス・ヒース林、⑤丘陵林に大別される。1933年のマレーシア・サバ州の森林面積は82%が森林面積で、熱帯低地林が面積の75%を占めていた。第2次大戦前までインドネシアのカリマンタンでも、マレーシアのサラワク州でも大半の土地がジャングルに覆われていた。

人間のあくなき開発が、各地の原生林を次々と破壊した。このまま違法伐採が続くのか。『Heart of Borneo』計画が実施され、12のダム計画が実施されると、2025年にボルネオ島の原生林の大半が消滅する。

そして乱開発、違法伐採が続くアマゾンの森も2050年に消えるかもしれない。未来に残す森と地球の危機である!





(写真上左・ボルネオ・インドネシア国境近くのサラワク州奥地の原生林 2003年 by HUTAN Group 西岡)

(写真下左・フタバガキ科カポールの種・サバ/下右・キングコブラの噛まれた時に使用の薬草 2004-05年 by HUTAN Group)

夜明けが迫り、朝靄の中から60mを超す巨木の樹冠が黒々と浮かび出す。ボルネオ島サバ州奥地の原生林。日が射し始め、ホーンビルや他の鳥の歌声が森の中に響く。梢からの滴が落つ。

マレーシア・サラワクの奥地。ここはインドネシアと国境の原生林。朝日が昇り始めて村に戻れば、先住民プナンの女たちが蠟燭を灯しながら米を研ぐ。1人の若者が森から帰ってきた。狩猟で野豚などを射止めてきた。豚を村の男たちが中心になって捌き、獲物を多くの人が分かち合う。獲物と取れた収穫物に祈りを捧げる。彼らは木材企業の伐採に抗し、原生林をずっと維持し、共同作業を続けてきた。

海岸沿いや低地にはマングローブ林、泥炭湿地林と陸地に伸び、少し乾燥したヒース林が織りなすインドネシア・カリマンタン。蛇行する川と豊かな森だった。スハルト政権から森の破壊が大きく進みだし、むき出しになった森が続く。

石油王国ブルネイ—低地に豊かな熱帯林が残されている。保全林が7割を占める。近年、森林保全へ取組み出した。着生シダが絡まる森は美しい。

サラワク、サバ、カリマンタン、そしてブルネイ、全てボルネオ島だ。多くの生命を育んできた島。第2次大戦前までは、大半の森林が残っていたが、、、。



◆◆◆サラワク州の奥地で狩猟民プナン人・ケラセイ・ナアーン村長◆◆◆

the hunting Penan people in the primary forest of Sarawak (写真 by HUTAN Group 西岡 2004 年)

—「《森は宝だ》！ 人間は何もしなくても、森が多くのもを生み出す。熱帯の森は多様性に富む」と村長が言う。





# 1、原生林の破壊とマレーシア・サラワクの先住民

## 1) サラワクの先住民の暮らし



(写真上・カヤン人の焼畑/下左・焼畑で数種の穀物収穫/下右・1年後焼畑周辺に二次林が育つ)撮影 by フリージャーナリスト・峠隆一

サラワク州の先住民は森と共に生きてきた。森無しでは暮らせない。森は狩猟する場であり、果物があちこちで取れ、多くの先住民は焼畑を利用してきた。先住民は、自分たちの共同体と隣の共同体との土地利用につき管理運営をするため、慣習権(アダット)によって耕作を維持してきた。村により異なるが、およそ次のような形態(\*)である。

ア)自分の「私有地」の焼畑で米等の収穫が少なかった家族は、翌年、村の共有地を使用できる。一定の地域内焼畑でその場所を決め、お互いに家族が作業を手伝う。

イ)どの果樹にも所有者がある。そこで実った果実は家族以外取ってはいけないが、地面に落ちたものは自由に所有できる。

ウ)数名で森へ狩猟した場合、その数名で獲物を分け与える。ただし、それらの家で食べきれないときは多くの家族に分ける。またその逆もある。

伝統的焼畑耕作では、原生林をよほどのことがない限り伐採しない。重労働でしんどいから。

原生林の伐採は二次林を伐採する時より4倍ほど労力がかかり、行わない。20年たてば焼畑地の森の二次林が大きくなり、以前と変わらなくなるからだ。「原生林破壊の意味がない」と大半の先住民が言う。

一方、移動の民プナン人の大半は焼畑を行わない。彼らは狩猟、採取という生活で、森の中の暮らしに依拠している。彼らは1~2週間、一箇所の森で暮らして獲物が減れば、他の森へ移動する。プナン人は森林を破壊されると、焼畑耕作中心の先住民より生活の基盤を大きく破壊される。

(\*)通信『ウータン10-13』号及びフリージャーナリスト・峠隆一氏より聞き取り



◆◆◆2)原生林の破壊—サラワクの森から—



(写真上左・サラワク州で商業用木材の伐採のため原生林を壊す 1991年/上右・木材集積地 1990年 Photo by HUTAN Group)  
 (写真下左・サラワク州の輸出用木材を曳くタグボート 1991年 /下右・日本等への輸出港 1992年 Photo by HUTAN)

第2次大戦後、アジアの熱帯林を有する国々は、[朝鮮戦争]による合板製造の経済需要により、「ただ同然」で原生林の伐採を日本やアメリカに許した。合板材に適したフタバガキ科のメランティがまとまって生息したフィリピンから異常な伐採がされた。フィリピンは過剰伐採により木材資源が枯渇し、その後マレーシア・サバ州、インドネシア・カリマンタンで伐採がされた。1965年頃よりマレーシア・サラワク州も木材輸出が進んだ。輸出先の1位は日本で2000年まで(現在1位は中国)続いていた。日本の木材会社や商社は、サバ州同様に「買い付け方式」で、華僑中心に伐採した。

フィリピンの山が禿げ上がった1970年代の後半に入り、サラワク州で森林破壊のスピードが増した。日本企業も例えば伊藤忠商事が、現地の木材企業と合弁会社(リンバン・トレーディング社)を作り、日本向けの木材確保に乗り出した。

サラワク州天然資源大臣兼環境大臣ジェームス・ウォン氏(今も在位)の親戚と手を組んだリンバン・トレーディング社に0.75%という低利融資(ODA)を日本政府は行った。

1980年に伐採許可面積は森林面積の約60%(約500万ha)強、1987年には85%、2000年に90%以上にもなる。サラワク州政府が伐採権を容易く発給できるので、1970年に伐採によるロイヤルティが州財源の約4割を占め、98年でも州財源の51%(\*1)となる。サラワク州は木材産業に依存しており、森林破壊を拡大してきた。

余りの伐採で国際熱帯木材機関(ITTO)は勧告で、「1994年までに永久林から伐採量を920万 $m^3$ に削減、95年から総生産量を1,250~1,300万 $m^3$ に定めるとしたが、同州は年間伐採量を1,300~1,900万 $m^3$ と過剰伐採し、1999年も勧告を守らなかった。それは州政府の首相や大臣の親族が、巨大な地域で伐採権を握っていたからだ(\*2)。

(\*1)1999年4月22日・日刊木材新聞、

(\*2)『The PLYWOOD CONNECTION』2004で1996年サラワク州伐採権ランク3位・州首相親族 Group-Source: Sarawak Tribune、州政府他より



◆◆◆3) 森を壊された先住民—サラワクの森から—



(写真上左・サラワク州での商業伐採 by 峠隆一 / 上右・1992年の先住民の道路封鎖 photo by HUTAN Group)

(写真下左・道路封鎖を弾圧する軍 1992年 / 下右・1993年道路封鎖したプナンの家を壊す企業 photo by HUTAN Group)

昔から森に生きてきたサラワクの先住民は小さな共有林を申請しても認められず、ブルドーザーが村や共有林にやって来て生存地を破壊された。伐採権発給の明示は都市や町でしか報じられず、先住民は字を読めない人が多かったので、伐採権発給について知ることも出来なかったのだ。

1982年、1986年、1987年2月、プナン人協会を含めプナン人、カヤン人、ケラビット人らの代表団は、サラワク州、連邦政府に伐採停止を申し入れる行動を起こした。サラワク州政府、マレーシア政府は先住民の人権侵害・森林破壊や生活破壊について聴こうとはしなかった。1987年3月とうとう、先住民たちは必死の思いで、各地で約90箇所の一斉の商業用伐採道路の封鎖を実施した。

「我々プナン人は、木材伐採中止を求め1987年3月23日から2箇所、また他の先住民も10箇所以上も道路封鎖を始める。森を取り戻すためにわれわれは反撃する」と。

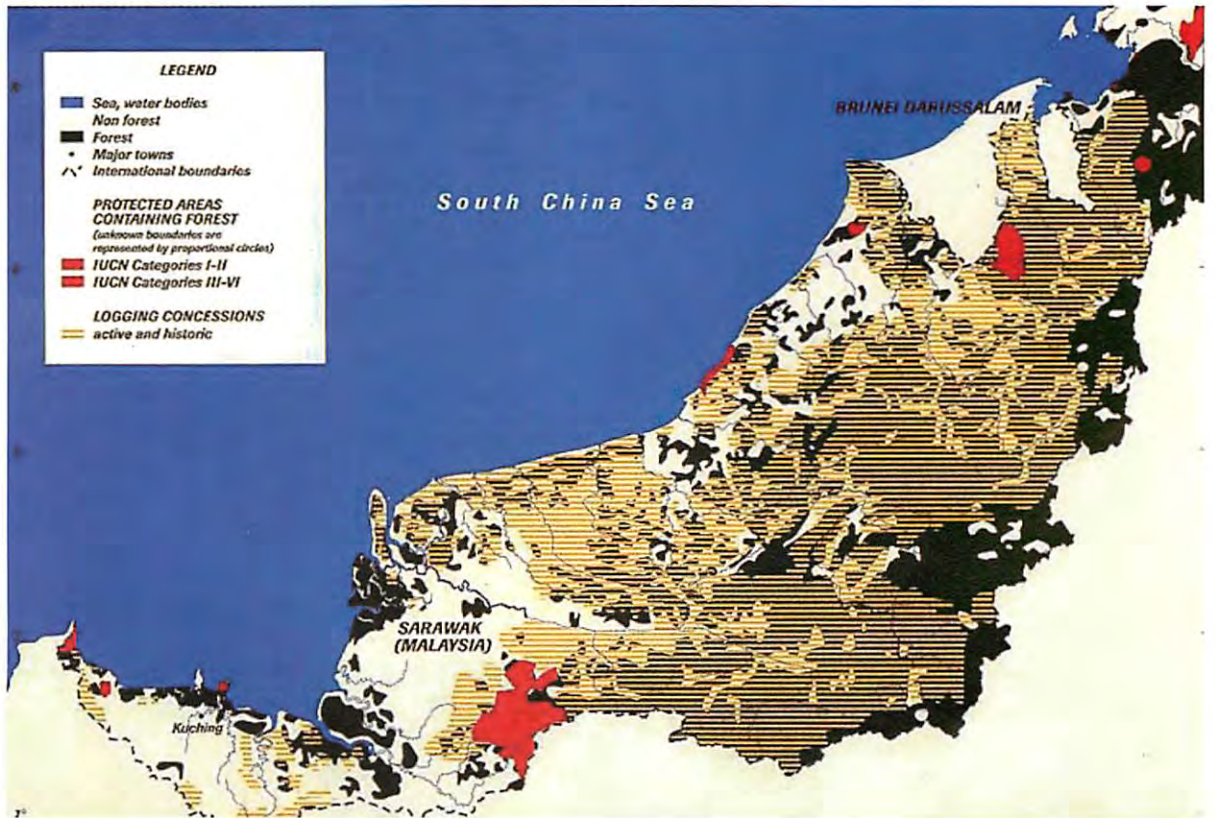
サラワク州は軍なども動員し、武力で道路封鎖を止めさせた。この一斉の道路封鎖問題が契機で、州政府は森林法を次々と改悪した。先住民は、森林破壊に対し道路封鎖、企業へ伐採停止申入れや裁判所への訴訟などいろんな方法で、生き残るために抵抗してきた。

だが、今もサラワク州やサバ州の原生林の破壊が今も進められている。

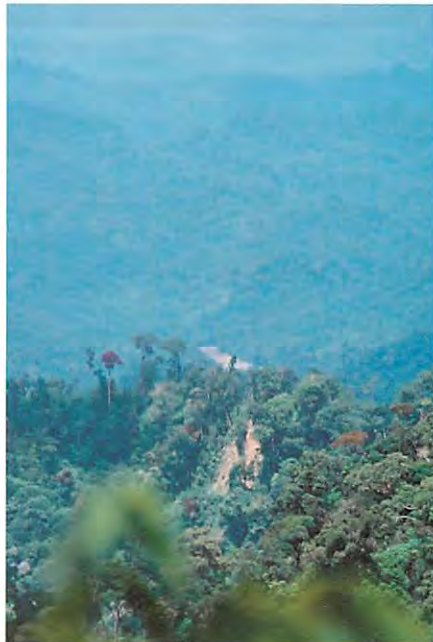


◆◆◆4) 危機に立つ先住民と原生林ーサラワクの森からー

図: 1987年のサラワク州の伐採状況(●森林・現在北部山岳地は破壊、=伐採権の森、■国立公園、■伐採済地・農地)



by IUCN 1990 より



(写真上左・サラワク州の原生林の上流の川辺で／中・切られたサラワク州原生林／右・同州の伐採道路 photo by HUTAN Group 西岡)1997-2004年

伐採により森に生活を依存の先住民は生存権を脅かされている。サラワク州政府は焼畑が破壊の原因とPRしたが、1979年の土地法で州有地での焼畑を罰則対象とし、「2001年には先住民の共有林の自家消費木材・薬草採取は政府の許可が必要」(\*)という。誰のための森林か？

伐採会社よりの悪法がまかり通って、先住民はますます危機的状況に立つ。これ以上の伐採による熱帯の原生林破壊は許されない！ Save! ボルネオ島、Save Tropical Rain forests!!

(\*)2004年、バル・ピアン弁護士より聞き取り



◆◆◆5) 先住民の訴え—サラワクの森から—

【日本の南洋材丸太輸入の近年の推移—2006年約100万m<sup>3</sup>、ピーク1972年の4%に減少】

図: 日本の南洋材丸太輸入の近年の推移 \*PNGとはパプア・ニューギニア

(単位: 輸入量 1000 m<sup>3</sup>、前年比%, 他はアフリカ) 日刊木材新聞より作成



(写真上左・熱帯産合板材にされ続けたフタバガキ科の巨木、サラワク州で) by HUTAN Group

年度	サバ州	サラワク州	ソロモン	PNG	他
1998	129	1975	171	876	152
99	200	2013	152	966	202
2000	142	2028	79	745	230
01	17	1352	61	404	224
02	125	1388	54	412	111
03	149	1120	38	408	120
04	198	1017	64	330	57
05	240	834	74	217	10
06	260	813	108	189	9



(写真上左・サラワク州奥地のインドネシア国境の原生林 /中・プナン人仮小屋跡 /右・プナン人 by HUTAN Group) 1999—2004 年

—【昔から先住民が多くの森を利用し、その森で暮らしてきた】～サラワク州プナン人村長

—【先住民から盗んだ黒い輸入木材を買わないでほしい!】～同州バル・ビアン弁護士

使用していた森を切られたプナン人を始め、多くの先住民が言う。

「ここは私たちの森だ。ここで40年ぐらい前に耕し今も使っている。60年前の畑は今使っていない所もある。原生林の中で家から遠いから。情報では、木材会社が伐採権を取得したって、。」

村長の私に何も言わず、勝手に伐採権を得て樹を切るのなら泥棒だよ」とプナン人の村長。

サラワク州の弁護士バル・ビアン氏も言う。

「森林はサラワクの先住民にとって狩猟採取の場で、生活の糧ですから、非常に大切です。

60年間、先住民とサラワク州政府の間で対立があります。州政府はサラワクの土地や森林に収入源を頼っていますが、同じ土地と森は先住民にとっても生活の領域です。何十年の間、サラワク州政府は先住民の慣習地として「プラウ」という土地を認めてきません。そこは原生林が残されており、先住民の神聖な森であり、土地なのです。しかし州政府は、木材会社から伐採の依頼があれば、[州政府の土地として]伐採権を容易く与えています。収入源としているからです。」

「多くのサラワク州の木材会社は、先住民が今まで管理してきた原生林を破壊し、その木材を合板材に製造して輸出しています。最大の消費国が今も日本が最大です。日本の皆さんは、サラワク州先住民から盗んだ黒い木材を買わないでほしい」とバル・ビアンさんは2004年に、日本の講演でアピールした。